

「2020年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－（素案）」の概要

目 的

- 大会後のレガシーを見据えた東京都の取組の方向性を明らかにする
 - ・ 大会を通じて価値あるレガシーを残していくための取組を、2020年に向けて着実に推進する
 - ・ 大会に向けた取組を明らかにすることにより、都民が大会に関わりを持ち、参加するきっかけとする

取組の方向性

大会後のレガシーを見据えた8つのテーマについて取組の方向性を提示

- 1 競技施設や選手村のレガシーを都民の貴重な財産として未来に引き継ぎます
- 2 大会を機に、スポーツが日常生活にとけ込み、誰もがいきいきと豊かに暮らせる東京を実現します
- 3 都民とともに大会を創りあげ、かけがえのない感動と記憶を残します
- 4 大会を文化の祭典としても成功させ、「世界一の文化都市東京」を実現します
- 5 オリンピック・パラリンピック教育を通じた人材育成と、多様性を尊重する共生社会づくりを進めます
- 6 環境に配慮した持続可能な大会を通じて、豊かな都市環境を次世代に引き継いでいきます
- 7 大会による経済効果を最大限に生かし、東京、そして日本の経済を活性化させます
- 8 被災地との絆を次代に引き継ぎ、大会を通じて世界の人々に感謝を伝えます

3つの視点

東京に

東京2020大会を起爆剤として、成熟都市・東京をさらに発展させ、ゆとりある真に豊かな都民生活を実現する

日本へ

オールジャパンで大会を成功に導き、経済の活性化や被災地復興の後押しなど、大会の効果を日本全国へ波及させる

そして世界に向けて

水素社会の実現に向けた先進的な取組や、東京、日本の高度なテクノロジー、東京のブランド力などを、東京が日本のショーウィンドウとして世界に向けて発信するとともに、大会を機に世界との交流をさらに深めていく

2回目のパラリンピック

パラリンピックを通じて、誰もが暮らしやすい東京を実現する

- 東京は、世界で初めて2回目のパラリンピックを開催する都市
- パラリンピックは、ノーマライゼーションの考え方を社会に定着させるなど、社会に変革をもたらす力がある
- このような大きな力を持つパラリンピックの成功がなければ、東京2020大会の成功はない
- 大会の成功に向け、都市のバリアフリー化や心のバリアフリーの浸透など、ハード・ソフト両面での取組を全力で進め、障害の有無にかかわらず誰もが暮らしやすい東京をつくりあげていく

今後の予定

- パブリックコメント募集（11月20日～12月4日）を経て、本年12月末に本公表

1 競技施設や選手村のレガシーを都民の貴重な財産として未来に引き継ぐ

1 新規恒久施設の着実な整備と有効活用、スポーツ施設の機能強化によるスポーツ拠点の拡充

- 新規恒久施設の着実な整備
 - ・外部専門家による諮問会議の設置
 - ・責任を明確にした体制のもとでの進行管理と適切な情報公開
- 新規恒久施設の有効活用
 - ・民間のノウハウを生かした施設運営計画の策定
(大会後の施設利用イメージ)
競技スポーツの拠点、スポーツ利用・観戦、
多目的な利用、周辺との連携、青少年教育の場
- スポーツ施設の機能強化
 - ・武蔵野の森総合スポーツ施設を整備し、ラグビーワールドカップ2019の会場となる東京スタジアムと一体となった多摩地域のスポーツ拠点を形成
 - ・既存施設の改修にあわせたバリアフリー化等の機能強化

2 選手村を誰もがあこがれ住んでみたいと思えるまちに

- 民間事業者の活力とノウハウを活用した選手村の整備
 - ・事業協力者の経験を生かした計画策定
 - ・市街地再開発事業における特定建築者制度の導入
- 多様な人々が交流し、快適に暮らせる機能を導入
 - ・多様な居住者を受け入れる住宅の整備
 - ・地域のにぎわいを生み、快適な暮らしを支える施設の導入
- スマートエネルギー都市づくりの推進
 - ・水素社会の実現に向けたモデルに
- 住む人も来る人もエコに活動できるまちづくり
 - ・カーシェア・シェアサイクル、船着場等の整備
 - ・BRT等のマルチモビリティステーションを中心とした交通結節点の機能強化

【選手村の導入機能】



3 バイエリアの交通利便性を向上させ、アクセスを強化

- 臨海部における骨格幹線道路等の整備
 - ・環状2号線、首都高速晴海線、臨港道路南北線、国道357号東京港トンネル等
- 交通需要に柔軟に対応する交通網の整備
 - ・臨海部の交通需要に対応したBRTの導入、バス路線の拡充
- バイエリアの回遊性を高める自転車利用環境の整備
 - ・シェアサイクルの拡充、自転車推奨ルート of 整備
- 船着場の整備による水上交通の充実と、水辺空間のにぎわいの創出
 - ・選手村、豊洲地区への船着場の整備
 - ・羽田空港と都心・臨海部を結ぶ航路の充実に向けた社会実験の実施など、舟運活性化の取組を進める

4 バリアフリー化の推進と安全・安心への取組

- 大会に向けたバリアフリー化の推進
 - ・競技会場周辺等の都道、都立公園、鉄道駅のバリアフリー化
 - ・都道や競技会場周辺の区市道等で無電柱化の推進
- アクセシビリティ・ガイドラインの策定
 - ・都が整備する競技施設への適切な反映
 - ・ユニバーサルデザインのまちづくりにつなげる
- 安全・安心を担う危機管理体制の構築
 - ・安全・安心部会の設置 (対処要領の策定、実践的訓練の実施)
 - ・国、組織委員会等の関係機関と連携を強化し、官民一体となった危機管理体制を構築

2 大会を機に、スポーツが日常生活にとけ込み、誰もがいきいきと豊かに暮らせる東京を実現する

1 多様な主体によるコラボレーションの仕組みを構築してスポーツを推進

- アスリートが活躍できる環境の整備
 - ・アスリートが次世代のジュニア層を指導する、アスリートサイクルを定着
- 都民のスポーツ実施率70%達成に向けた取組の推進
 - ・都民、地域との協働を進め、地域スポーツクラブの設置拡大と活動支援を推進
 - ・身近な地域における障害者スポーツの環境整備を図るための連絡調整の場を設置
 - ・民間企業を含め、スポーツを支える主体間のネットワーク構築
 - ・働き盛り世代のスポーツ習慣定着化に向け、経済団体等と連携し企業等の持続的なスポーツ活動を推進

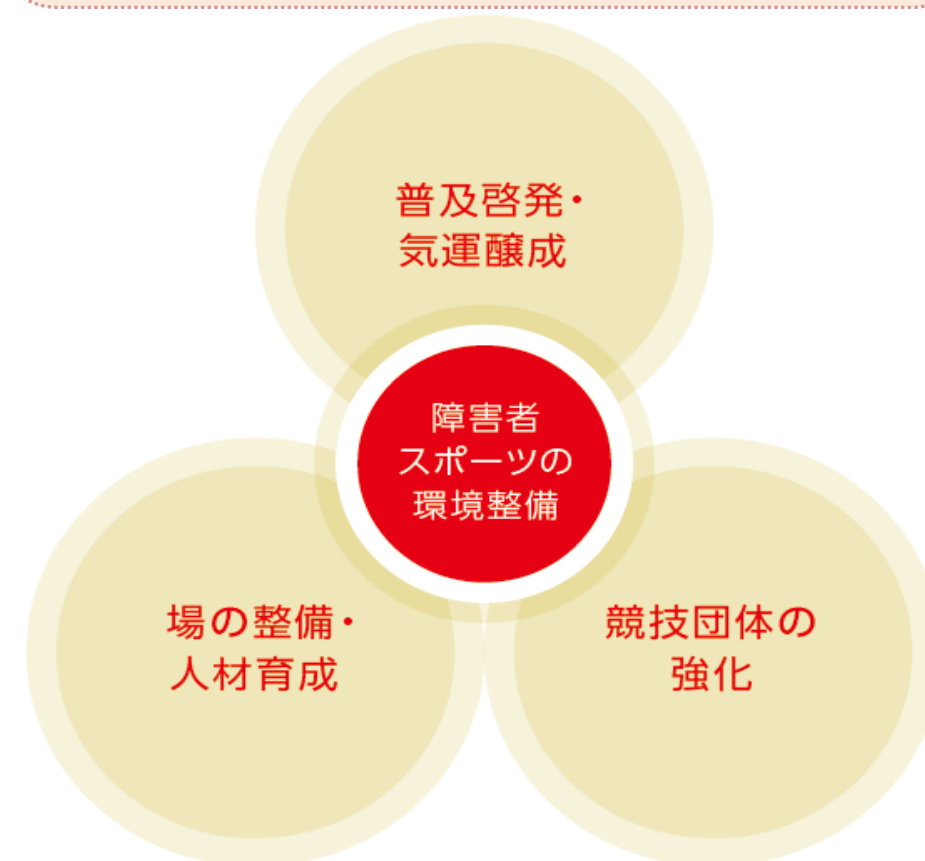
2 東京の資源を最大限に活用して東京全体に「スポーツフィールド」を創出し、いつでもどこでもスポーツができる環境を整備

- 様々な資源を最大限に活用して「スポーツフィールド」を創出
 - ・道路、遊歩道、公園等を、ウォーキングなど身近なスポーツの場としても活用
 - ・特別支援学校を障害者スポーツの拠点の一つとして一層活用していくため、施設活用の試行事業を実施し順次拡大
 - ・職場内や駅の階段等を活用した日常生活における健康づくりを推進

3 パラリンピックの成功に向けて、障害者スポーツの認知度を飛躍的に向上させ、障害者がスポーツに親しむための環境整備を加速

- 障害者スポーツの普及啓発とパラリンピック・ムーブメントの創出
 - ・障害者スポーツの支援に取り組む企業等と障害者スポーツ団体とをつなぐ取組を推進
 - ・障害者スポーツを支援する企業等の優れた取組を表彰
 - ・メディアでの積極的な情報発信やパラリンピアン等の協力を得たPR
- 障害者スポーツの場の整備と人材育成
 - ・都立障害者スポーツセンターの改修による機能・利便性向上
 - ・既存施設の活用を含め、広域的な観点からの障害者スポーツの場の充実・強化を検討
 - ・障害者スポーツやパラリンピック競技に理解の深いボランティアの育成
 - ・地域スポーツ施設を障害者スポーツの場として一層活用できるよう、区市町村へ働きかけ
- 障害者スポーツ競技団体の強化
 - ・選手の発掘・育成に向けた競技団体との連携強化
 - ・競技団体や選手のニーズに応じた支援の実施

パラリンピックの成功に向けて、障害者スポーツの認知度を飛躍的に向上させ、障害者がスポーツに親しむための環境整備を加速



3 都民とともに大会を創りあげ、かけがえのない感動と記憶を残す

1 都民の皆様の参加を得て、大会開催気運を醸成

- オリンピック・パラリンピックの魅力を体感できる多種多様な機会、プログラムを展開
 - ・ライブサイトを各地で展開
 - ・リオ大会でジャパンハウスを設置し、東京の魅力を世界に発信
 - ・リオ大会でのフラッグハンドオーバーとフラッグツアーの実施
 - ・カウントダウンイベント、パラリンピックの競技体験プログラム
 - ・日本各地で開催されるイベントとの連携
 - ・ラグビーワールドカップ2019でファンゾーン等を設置して盛り上げ、東京2020大会の気運醸成につなげる
- 様々な主体と連携して、東京全体に開催都市の雰囲気を出し創出
 - ・地域や民間団体等の自主的な取組を応援する仕組みづくりを検討
 - ・シティドレッシングによるおもてなしの雰囲気の創出
- 様々なメディアを通じて、多くの都民、国民に大会をPR
 - ・東京2020大会の魅力を伝えるプログラムを戦略的にPR

カウントダウンイベント
「みんなのTokyo2020
5 Years to Go!!」



2 「オール東京」で大会を成功に導く

- 先導的取組の展開
 - ・都内各地でのパラリンピックの競技体験プログラムの展開
- きめ細かな情報提供と相談体制の構築
 - ・区市町村への事前キャンプ誘致に関する情報提供
 - ・東京自治会館を市町村への情報発信の拠点とし、オリンピック・パラリンピックの魅力を伝える写真や映像の紹介など、事業実施に役立つ情報を提供
- 区市町村の取組への支援
 - ・地域住民が身近な場所で、スポーツに親しむ機会やおもてなしを学ぶ機会を提供する区市町村の取組を支援

3 大会を支えるボランティアの裾野を拡大するとともに、ボランティア文化の定着を目指す

- 大会を支えるボランティアの裾野拡大
 - ・「東京都ボランティア活動推進協議会」を通じた取組の推進
 - ・企業、町会、学校など様々な主体との連携を推進
 - ・障害のある人もない人もボランティアに参加しやすい環境づくり
 - ・ホームページやシンポジウムを通じた情報発信による気運醸成
 - ・おもてなし東京による街なか観光案内実施箇所の拡大と活動に必要なサポートの提供
 - ・大会関連ボランティアの育成において、障害のある人へのサポート方法などの研修を実施
 - ・ラグビーワールドカップ2019に向けて育成したボランティアを、東京2020大会の大会関連ボランティアにつなげる
- ボランティア活動への参加促進とボランティア文化の定着
 - ・ボランティア・コーディネーターの充実
 - ・インセンティブの付与等により、ボランティア文化の定着に向けた取組を推進
 - ・「共助社会づくりを進めるための指針(仮称)」策定



4 大会を文化の祭典としても成功させ、「世界一の文化都市東京」を実現する

1 これまでにない多彩で魅力的な史上最高の文化プログラムを展開

- 文化プログラムを先導するリーディングプロジェクトを推進
 - ・「東京キャラバン」をリオ大会開催地や日本各地で展開
- 様々な主体が連携・参加し、これまでにない先進的な文化プログラムを展開
 - ・文化プログラムをけん引するシンボリックな事業を展開
 - ・公募等に基づき様々な主体の新たな発想を取り入れた事業展開を促進
 - ・海外との交流を推進し、国際的な発信力を強化
 - ・東京と全国各地が連携し、オールジャパンとしての魅力を向上

2 あらゆる人が芸術文化を享受できる社会基盤の構築

- アール・ブリュットの普及推進
 - ・自治体、大学、福祉施設、NPO等との連携
 - ・制作・交流・展示のための拠点の形成
- 子供や青少年が芸術文化に主体的に関わる場や機会の創出
 - ・学校、児童館、公民館等における体験機会の創出
- 障害者や高齢者など、様々な人々と芸術文化をつなぐ活動や芸術文化を通じて社会課題に向き合う活動を支援
- 文化施設の機能更新

3 東京の持つポテンシャルを活用し、芸術文化の魅力を世界に発信

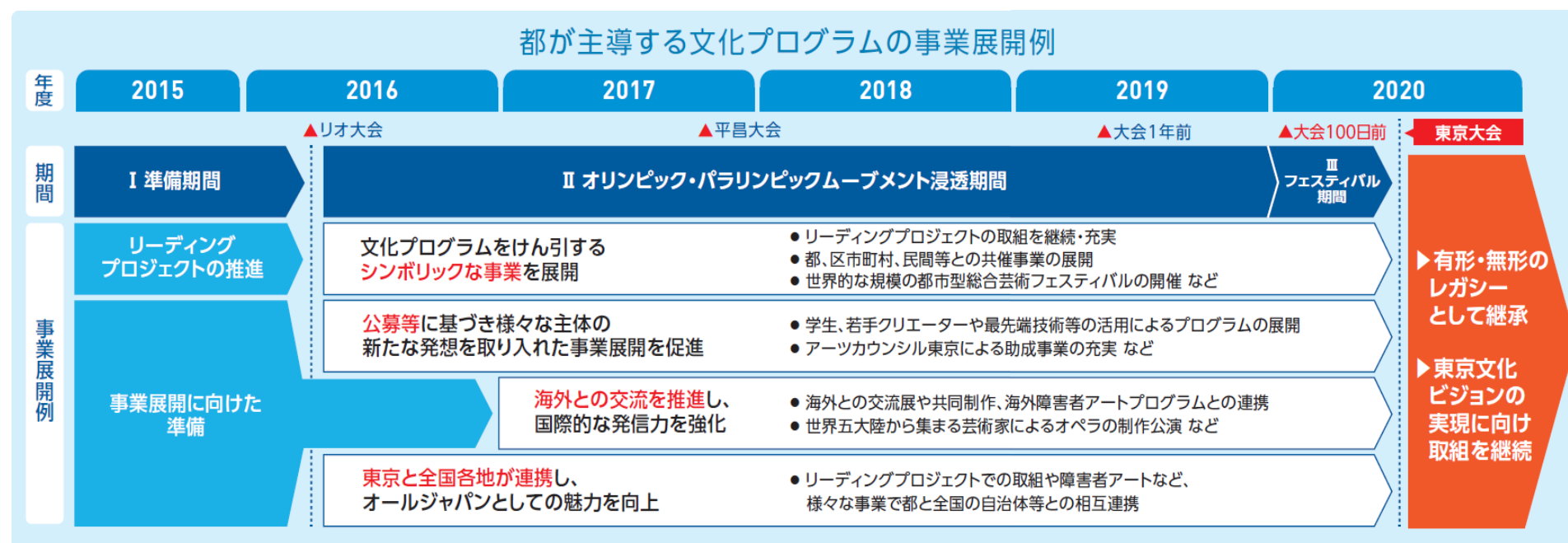
- 多彩な文化拠点を際立たせ、東京全体の魅力を向上
- 海外との文化交流を推進し国際的な発信・交流を強化
 - ・アーティスト・イン・レジデンス事業の推進
 - ・海外の芸術文化団体、文化施設との連携
- 最先端技術と芸術文化の融合
 - ・テクノロジーとアートを融合させたコンペティションの実施
- 芸術文化を支える人材の育成
 - ・キュレーターやアートディレクターの育成と市場創出・販路拡大



六本木アートナイト2012の様子
©六本木アートナイト実行委員会



第7回恵比寿映像祭 展示より
久野ギル《Haze》2012
写真：新井孝明 提供：東京都写真美術館



5 オリンピック・パラリンピック教育を通じた人材育成と、多様性を尊重する共生社会づくりを進める

1 オリンピック・パラリンピック教育の推進と多様性を尊重する意識・態度や国際感覚の醸成

(1) オリンピック・パラリンピック教育の展開

- 「4テーマと4アクション」によるプログラムの提供
- 国際理解・交流を促進するための仕組みの導入
 - ・東京の特性を生かした、多様な国々について学ぶ機会の提供

(2) オリンピック・パラリンピック教育における多様性を尊重する意識・態度や国際感覚を醸成する取組の展開

- 異文化理解と国際交流の推進
 - ・留学生や地域在住の外国人、大使館等との交流
- 教育を通じた障害者への理解促進
 - ・パラリンピアンへの派遣や障害者スポーツ体験
- ボランティアマインドの醸成
 - ・子供たちが大会関連ボランティアとして活躍できる機会の設定
- 使える英語力や国際感覚習得のため学びの場を国際化
 - ・「英語村（仮称）」の開設
- 日本人としての自覚と誇りの涵養
 - ・日本や東京の文化・歴史を題材とした都独自の英語教材の活用
- 高等教育におけるグローバル人材の育成
 - ・留学プログラム・海外体験プログラムの実施

2 多文化共生社会に向けた取組の推進

- 外国人が住みやすいまちづくりを進めるため、在住外国人支援策を充実
 - ・外国人にわかりやすい統一的な情報提供
 - ・生活全般における多言語対応の充実
- 在住外国人が地域活動に参画できる仕組みを整備
 - ・地域のイベント等に参加しやすい環境づくり
- 共生意識の普及啓発
 - ・人権尊重の取組を国内外へ発信

3 障害のある人もない人も互いに尊重し、支えあう共生社会の実現に向けた取組の推進

- ユニバーサルデザインの視点に立った福祉のまちづくりの推進
 - ・アクセシビリティ・ガイドラインの活用
- 心のバリアフリー・情報バリアフリーの推進
 - ・ICTを活用したコミュニケーションツールの普及促進
 - ・心のバリアフリーの普及啓発に向けた教育の推進
- 障害者のスポーツ・文化芸術活動の振興
 - ・障害者美術展や「障害者アートプログラム」等の実施



6 環境に配慮した持続可能な大会を通じて、豊かな都市環境を次世代に引き継ぐ

1 水素社会の実現に向けた取組の推進

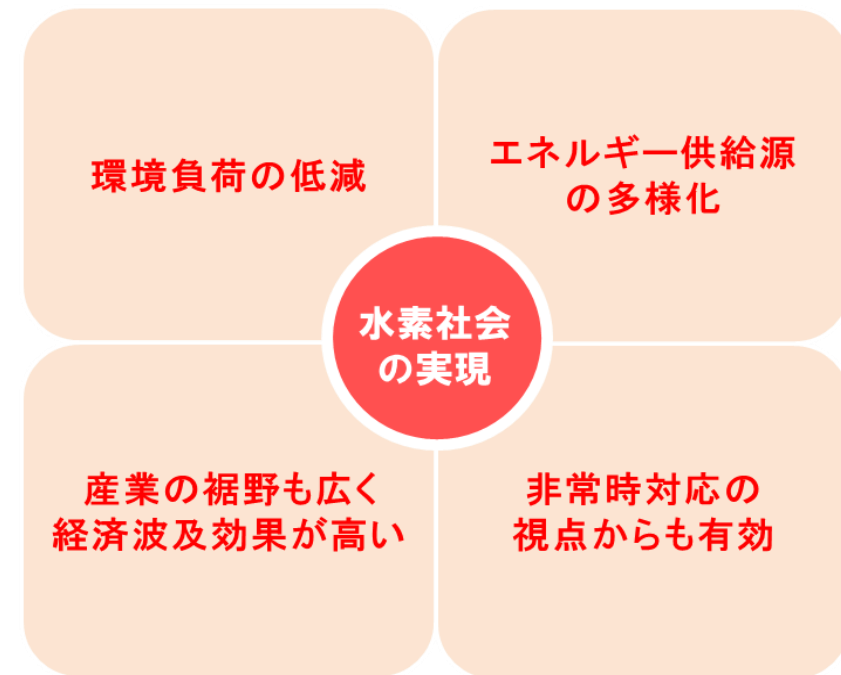
➤ 水素エネルギー普及の推進

- ・選手村を水素社会の実現に向けたモデルとする
- ・CO₂フリー水素も先駆的に活用するなど、環境と調和した未来型都市の姿と日本の高い技術力を世界に発信
- ・安全対策を着実に実施しながら、水素エネルギーを都市づくりに組み込むことにより、環境にやさしく災害に強い都市の実現

【取組例】

水素ステーションの整備（設置事業者への支援、都関連用地の活用）
燃料電池自動車・バスの普及（都営バス、BRTに率先して導入）
家庭用、業務用等燃料電池の普及（集合住宅等への燃料電池の普及）
都民への普及・浸透（水素に馴染みの薄い都民も対象とした普及啓発）
安定的な燃料供給と需要創出（羽田空港での活用などに向けた検討）
国への働きかけ（水素ステーション設置に関する規制緩和などを要望）

水素エネルギーの意義



2 持続可能な都市の実現のための環境対策の推進

➤ スマートエネルギー都市の実現

- ・大会施設等でエネルギー利用の効率化・最適化
- ・競技会場建設から廃棄物処理まで、大会の開催前・開催中・開催後のそれぞれの段階で、CO₂排出を管理・抑制

➤ 持続可能な資源循環型都市の実現

- ・大会に向けて廃棄物の3R（リデュース、リユース、リサイクル）を徹底
- ・大会に向けて再生資材等を選択するなど、「持続可能な調達」の推進

➤ 大会に向けた暑さ対策と、水と緑に囲まれた快適な都市環境の実現

- ・遮熱性舗装等の整備やクールスポットの創出など、大会に向けた暑さ対策の推進
- ・競技会場周辺等の道路で花と緑を生かした緑化
- ・競技施設周辺等で生態系に配慮した植栽を推進



ドライ型ミストによる暑さ対策
（東京スタジアム）

7 大会による経済効果を最大限に生かし、東京、そして日本の経済を活性化させる

1 大会を機に魅力的な国際ビジネス環境の創出を促進し、日本経済の持続的发展に貢献

- 国際ビジネス拠点の整備
 - ・ MICE機能強化拠点など、ビジネス拠点のスピーディーな整備
 - ・ 外国医師に関する特区特例の活用
 - ・ 東京開業ワンストップセンターにおける迅速な開業環境の創出
- 東京国際金融センターの実現
 - ・ 首都大学東京における高度金融専門人材の育成
- ライフサイエンスビジネス拠点の形成
- グローバル社会に対応した生活・滞在環境の整備
 - ・ 外国語表記の普及拡大など言葉のバリアフリーの実現

2 大会を契機に東京を世界有数の観光都市にするとともに、東京から日本の魅力を発信

- 東京ブランドの推進
 - ・ ロゴ・キャッチコピーの活用やキャンペーン等によるPR
 - ・ 多摩・島しょの観光資源や水辺の豊かさなど東京の多様な魅力の発信
- 外国人旅行者の受入環境とおもてなしの場の整備
 - ・ 広域的な観光案内拠点の整備や通訳アプリの導入、デジタルサイネージの整備
 - ・ おもてなしの場として「延滞館」を復元整備
- 日本各地との広域連携
 - ・ 日本各地と連携した広域観光ルート設定や共同ファムトリップの推進
 - ・ 都庁展望室等での全国特産品の展示販売会の開催

3 東京のみならず日本全国に幅広く経済効果を波及させるため、中小企業等の取組を支援

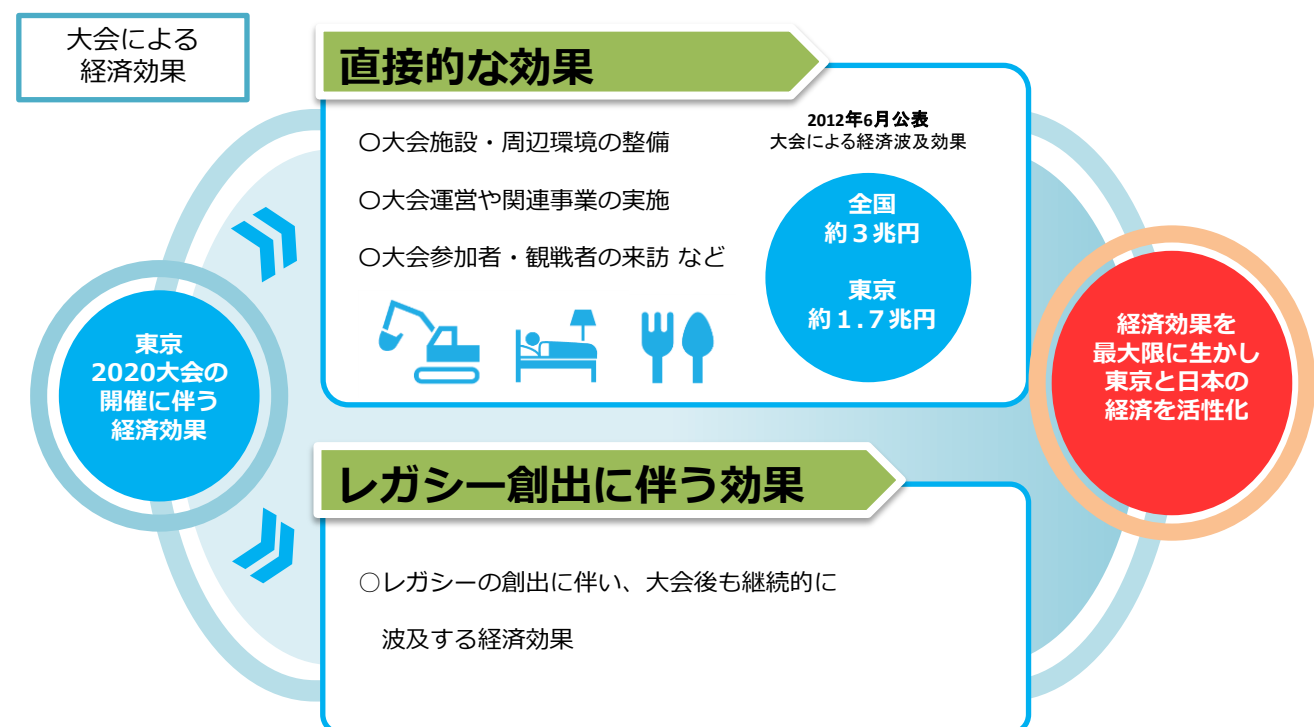
- 中小企業の受注機会の拡大
 - ・ 大会を契機に生み出される様々なビジネス情報を提供するポータルサイトの構築
 - ・ 全国の企業によるポータルサイトの活用促進
- 新たな技術・製品・サービスを創出
 - ・ 医療・環境・ロボットなど成長分野へ参入促進
- 優れた技術・製品・サービスを世界に発信
 - ・ 有力な展示会や商談会への出展支援
 - ・ 東京をはじめ日本のものづくりと匠の技の素晴らしさを国内外に発信

4 大会を契機として、東京をはじめとする国内産食材等を活用して魅力を発信するとともに、東京の農林水産業の生産力を強化

- 農林水産物の活用と魅力の発信
 - ・ 大会時の東京産食材の利用に向けた関係各機関との調整
 - ・ 食材と飲食店とのマッチング強化
 - ・ 大会を契機とする幅広い機会を活用した国内産農林水産物のPR
- 農林水産物の安定供給
 - ・ 農林水産物の高付加価値化・ブランド化の促進
 - ・ 東北地方などと連携したブランド畜産物の新規生産者開拓

5 テクノロジーを活用して様々な課題の解決を促進し、科学技術面でのプレゼンスを向上

- 国、大学、民間企業等と連携して東京・日本の技術開発を促進
 - ・ 水素エネルギー技術の普及・拡大（選手村での活用）
 - ・ ITS技術を活用した交通の円滑化（交通情報カメラ映像の画像解析による信号制御の高度化）
 - ・ 大学との連携による先端技術研究シーズの活用（首都大学東京の「2020未来社会研究プロジェクト」の推進）



8 被災地との絆を次代に引き継ぎ、大会を通じて世界の人々に感謝を伝える

1 スポーツの力で被災地に元気を届け、復興へ歩む姿を世界に発信

➤ スポーツの力で被災地に元気を届ける

- ・スポーツ招待交流事業やスポーツ観戦招待事業、東京マラソン10kmコース招待事業、アスリート派遣事業を引き続き実施
- ・未来（あした）への道1000km縦断リレーへの世界的な著名人や外国人ランナーの参加を促すなど発信力の強化
- ・大会の興奮と感動を届けるため、被災県にライブサイトを設置
- ・被災自治体に事前キャンプ誘致に関する情報等を提供するとともに、都内の事前キャンプ候補地との共同PRを実施

➤ 復興へ歩む姿を世界に発信

- ・メダリストと被災地の子供たちとの交流など、力強く復興へ歩む姿を継続的に映像に記録し、様々な機会を通じて世界に発信
- ・リオデジャネイロ大会終了後のフラッグツアーを被災地でも実施



未来（あした）への道
1000km縦断リレー



アスリート派遣事業

被災地を
元気づけ
復興を後押し

復興の軌跡を
世界へ発信



継続的な映像の記録（イメージ）



芸術文化を活用した被災地支援事業（福島県）

2 早期復興に向けて被災地を支援

➤ 被災地の復興を支援

- ・被災3県への職員派遣

➤ 風評・風化対策

- ・「ふくしま⇄東京キャンペーン」の展開
- ・卸売市場関係者等を対象とした研修会を被災地で開催
- ・都民に震災体験を語り継ぐイベント等を実施

➤ 被災地との交流

- ・アートプログラムや「東京キャラバン」などの実施
- ・オリンピック・パラリンピック教育において、被災地と連携した取組を推進